

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様が安心して生活する為に「あぐり河野」の理念がある。ホールに掲げて申し送り、ケア会議、職員会に確認し合っている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りや引継ぎ時に、理念について話し合ったり、職員間で意見交換を行っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月末、ご家族へお便りと、年に数回ホーム便りを地元で発行し、地域の皆様方やご家族様に、地域の中で暮らしている、ホームでの様子や生活の様子を紹介して理解を深める取り組みをしている。		より多くの方々に理解して頂く様、家族会、地域の行事に積極的に参加していく様努める。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は地元出身者が多く、ご近所と挨拶をするなど日常的な交流はある。ご近所の人にも畑で採れた野菜や果物をもって来て頂いたり、地域の皆様からも助けて頂いている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	3. 理念を実践するための制度の理解と活用		老人会（豊生会クラブ）への参加を申し出ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者の知識・理解を広める話し合いを、河野ボランティア交流会に行いました。		認知症関連の学習会を地域の方々と行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的を理解し、自己・外部評価を実施。結果を参考に、項目別に話し合い、改善に向けて取り組んでいく。サービスの質の確保と向上に努めてく。課題を見つけ改善出来る様努めていく。		評価の結果を、今後に活かしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、サービス状況や活動報告は行っている、入居者の様子も話している。会議に参加された方から意見を聴きサービス向上に活かしている。		概要、状況、活動、報告に留まらず、意見を積極的に活かしてサービス向上に心がける。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	豊丘村包括支援センター、豊丘社会福祉協議会の職員の方がホームへ訪問して頂いたり、ホームの職員が相談に伺い、情報を頂きサービスに活かしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当法人の代表者が、地域権利擁護事業や成年後見制度について、必要に応じて管理者や職員に伝えている、が理解が出来ていない。		該当する事例がなく、学習する機会がなかった。知識として学習しておきたい。今後会議や勉強会テーマに盛り込んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、職員会で資料紹介はした。虐待行為が起きない様スタッフ間でミーティングやケア会議・職員会にて、ケアの意識確認を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には、契約書を管理者が分かりやすく説明し、不安や疑問があれば納得のいくよう丁寧に説明している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	コミュニケーションの中から、不安や苦情等をスタッフは把握し、ケア会議・職員会で管理者を中心に確認し、改善する点を運営に反映している。		入居者が意見を言える環境を作って行きたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者の生活状況や、健康状態等は月末のお便りでお知らせし、金銭管理については、領収書を明細書に添付し、毎月の請求時にご家族へ送付している。異動に関しても随時報告している。家族の訪問時にも情報は伝えている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族の意見や不満、苦情については苦情相談窓口で管理者・ホーム長が責任をもって行うようにしている。聞き出すようにしている。		ご家族同士が定期的に集まり、意見交換や交流を深める機会を増やして行き、様々なご意見、ご要望を聞き、向上していきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	施設代表者は職員会、ケア会議時に。又管理者はシフトに入り運営に関する意見を職員から聞き、それを反映させるよう心掛けている。		運営者や管理者は、現場の意見をより多く聞き出す機会を設けて行きたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の生活を支える上で、職員が多く必要な時には、職員配置を手厚くしている。調整は管理者が行っている。		行事や外出に合わせて勤務体制を整えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は、最低限としている。離職を少なくするため、勤務時間希望を積極的に聞く努力もしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修会、各専門機関の勉強会に積極的に参加している。資格取得を目指している職員には、学習会に積極的に参加するよう働き掛けている。		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	長野県宅老所・グループホーム連絡会に加盟している。定期的に近隣のグループホームと相互訪問を行い、意見交換も行っている、協力体制は整えている。		生活保護者にも利用して頂ける、法改正を望みます。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	話し合いを定期的に設けたり、新年会等を設け気分転換をしている。悩み事があれば出して頂くように働き掛けている。		休憩時間に休める場所を確保していく。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	資格を取得した職員には、資格手当が支給されている。就業規則に沿って働きやすい環境作りをしている。全職員の健康診断を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>不安な入居者には、納得行くまで事前にお話して、グループホームでの生活がどのようなものかを知って頂くようにしている。</p>		<p>ダメージの多い住み替えに、納得の行くまで説明させて頂く。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームの暮らしで、不安なことは、管理者・ホーム長・計画作成担当があらゆる場面を想定しながら説明し話を聴くようにしている。</p>		<p>納得いくまで懇切丁寧に説明し、家族との信頼関係を築いていく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>在宅・病院・他の施設で生活をしている要介護者の場合、本人の状況を確認した上で、家族や担当の介護支援専門員と相談をし、適切な生活の場を確保する。</p>		<p>他の施設と協力していく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームでの生活が、本人に合っているかを確認して、雰囲気や生活に慣れて頂くために、ご本人、ご家族等に丁寧に説明している。</p>		<p>認知症症状の方にサービスの内容を納得して頂くのは難しい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と共に過ごす中で、生活の知恵を学ばせて頂いている。その中から自然と喜怒哀楽が生まれて来る。互いに支え合う関係を築いている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、随時本人を支えて助言を頂くようにしている。		面会・連絡等を通して共に協力し合える環境作りをしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの生活をご家族にお知らせし、現状を理解していただくようにしている。		ご家族様が多忙な方が多く、行事参加等の機会が少ない、もっと入居者様とご家族様の交流を図る機会をつくっていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でもホームに来やすい環境作りに心掛けている。本人が外出して会いたい時にも、家族と相談して対応している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者一人ひとりの素晴らしいところを見出し、入居者同士が助け合える関係を築いている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、ホームとして出来る範囲で継続的な関わりを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時以外にも、ご本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、過去を聞いたり生活歴等を考慮して今の暮らしに反映している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方は、ご家族に聴いたりしている。サービス利用の経過についても同様である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人や、家族からお聴きする様にしている。共に過ごす中から見つけ出すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ご本人やご家族の希望を聴き、職員会、ケア会議に職員の意見を聞き作成をしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、期間を設けながら、モニタリングし、評価したうえで再アセスメントしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、介護明細に記録し、ケア会議、職員会に見直し継続的に確認し、介護計画に反映している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院にご家族が行くことが困難な家については、職員が対応している。医療連携加算を活かしたサービスをしている。		開所3年経過時、ショートステイ、デイサービスの事業を検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	河野地域の女性部ボランティアグループの皆さんに、話し相手や行事、農作業の補助をして頂いて。北小学校や北保育園、河野児童クラブの方々と定期的な交流を図っている。消防署には訓練を依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスが必要になった時は、本人の一番良い生活環境を考えるようにしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に、運営推進会議の委員を依頼していることもあり、適時協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、入居者の状態を伝え、定期的に往診して頂き、日々の健康管理について、個別指導を受け対応している。		個人医院と総合病院との並立を検討していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師に専門的な助言を頂き、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーション「ふれあい」や看護師に健康管理・相談を依頼し指示を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には安心して過ごせるよう、本人・家族・病院関係者と連絡を密に行っている。また、退院後も再入所できる体制にしてある。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期介護を必要とした入居者がおりましたが、本人の意思疎通が困難であったため、家族とかかりつけ医と相談し、入院となった。他の入居者の対応についても話し合いをしていく予定である。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の介護を実践したことがないけれど、事業所の出来る事・出来ない事を確認し、家族とかかりつけ医と連携しながら、対応していきたい。		今後ターミナルケアを想定した学習会を積極的に受講していく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設等に移る際、アセスメント等の情報は、必要に応じて行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報、厳重に管理している。取り扱いは入所契約時に本人又は家族等と話し合い、必要に応じて確認をしている。職員の秘守義務の徹底。コンプライアンス研修を行っている。</p>	<p>共同生活の中でも、プライバシーを損ねない対応に心がける。尊厳を持った対応をする。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>これまでの生活歴を聴きだし、暮らしの中で力が発揮される役割をホームの中で取り入れていく。(料理・裁縫・菜園仕事・習字・生け花)等。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでは入居者のペースを最優先し生活を支援している。起床・就寝・食事等は本人のペースで、入浴も希望を聞き、時間等調整している。何をしたいか聞きだしている。</p>	<p>職員側の押し付けにならないよう希望に沿って対応していく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみは、洋服等は本人の好みに合わせ、家族に用意して頂く。理美容は家族に連れて行って頂いたり、本人の希望で訪問理美容に依頼するなどしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食時の準備と片付けは、入居者と一緒にやる。テレビは消し、楽しく会話しながら食事をする。畑で収穫した野菜類を保存して使用している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	好みのものを聴きだし、飲食して頂いている。アルコール類も行事の時に飲んで頂いた。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	入居者の排泄状況や間隔を確認して、気持ちよく排泄出来る様支援している。清掃にも心がけている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	希望を聞いて、プライバシーを守り入浴して頂いている。入浴時は入居者と職員のコミュニケーションの場となっている。1人入浴を望まれる方には定期的に声掛けをし安否確認をして入浴して頂いている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	今迄の生活習慣を重視し、休息、就寝の時間は個々の時間を尊重している。安眠の為、湯たんぽや電気毛布を使用している方もいる。希望で夜間居室を施錠される方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	裁縫の得意な人は、台拭き作り。調理が好きな人は、食事作り。農業が得意な方は、畑仕事に参加。個々の楽しみごとに合わせた日課を取り入れている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	ご本人が金銭管理ができる方は、家族と相談して所持して頂いている。また、希望の買い物は、一緒にお財布をもって出掛けたりしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の希望があれば職員と出かけることもある。また、庭いじりや散歩に出掛けたい時も職員の付き添いや見守りでやっている。		冬場の寒い時にも外出できる場所と機会を設けて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の楽しみを見つけにドライブに出掛けている。家族が迎えに来て、外出をする入居者もいる。家族に協力を依頼している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の希望がある時は、かける相手を教えて頂き、対応している。手紙の希望は、その都度対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	環境作りと、丁寧な接客態度を心掛けている。一緒にお話しする場所も本人やご家族に決めて頂く。その際、お茶をお出しするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、どの入居者にも行っていない。身体拘束は、相手の気持ちを無視した介護と言うことを理解した上での対応である。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、居室は施錠していない。夜間は防犯と外部からの進入を防ぐため施錠する時もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	入居者の所在は、常に頭に入れながら職員は行動している。また、認知症状により、不穏時は職員間で連携を密にして対応している。		職員の目は何時も入居者に向いている様心がける。
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	安全を最優先している。本人の大切にしている物や、気分転換になる物は、家族と相談して対応している。		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	危険性を予測して、安全へ配慮した対応をしている。ケア会議、職員会時検討している。		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	看護師・消防署職員から緊急時の対応等、入居者個別の状況に応じ教えて頂いている。		消防署による応急手当の講習を定期的に受講する様努めていきたい。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	避難訓練は地元消防団、高森消防署指導の元、併設の居宅介護支援事業所・訪問介護事業所の協力の元行っている。近隣の住人（協力員）に災害時の協力をお願いしている。非常用水分は確保している。		避難訓練は定期的に、近隣の協力者にはその都度依頼をする。非常食（ご飯・缶詰等）の備蓄も検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こる可能性のあるリスクについては、家族と職員が一緒に考えている。		進行する状態を見極めて対応していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変時には、バイタルチェックを行い、救急車、主治医、看護師、訪問看護ステーション「ふれあい」に連絡し早期対応に心がけている。		高齢者の場合症状がはっきり出ない時がある、常に心配りを心がける。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者1人ひとりの薬使用の目的を理解し、副作用等についてもケア会議、職員会時看護師から情報を得ている。		服薬の大切さを再確認し、服薬忘れのないようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・おやつ献立に繊維質や海藻類、果物の食材を多く、水分摂取量を多くするなどに対応している。薬に頼るときもある。		高齢と共に腸の働きが悪くなり、便秘になる方が多い、体操や歩行で蠕動運動を盛んにする運動やマッサージを取り入れていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・毎食後の口腔ケアは、個別に対応している。定期的にJ A 歯科往診を依頼している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受けた。食事量や水分量がバランスよく摂取できているか確認し介護明細に記述している。本人の嗜好にも配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のため、手洗い、うがい等職員の衛生管理を徹底している。食事前には消毒液で手の消毒をしている。ペーパータオルの使用。調理後、まな板や包丁も除菌している。		訪問者から感染する防止策が出来ていない。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房の衛生管理に努め、掃除・調理道具の除菌をしている。食材も食中毒に気をつけ新鮮な物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりには、花木の緑を多くしてあると同時に、近所の家に行くような住環境にしてある。安全に車椅子の通行が出来るスロープも設置してある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を置いたり、飾り物をするなど快適に過ごして頂けるよう配慮している。不要なテレビは消す様にしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で読書や新聞を読むことが出来たり、気の合う入居者同士が一緒に話することができるコタツやソファがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使うものは、本人と家族が選んで使っている。家族の写真や馴染みのカレンダーを掛け、自宅で生活しているのと同じで居心地よくしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の環境整備を行っており、換気もその際に行っている。また、室温は体調を崩さないよう常備適温にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーにしてある。、安全に歩行できるように手すりを設け、段差を少なくしている。室内散歩で健康維持、身体機能低下を防止している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや倉庫がわかるように、文字や絵を書いて混乱を防いでいる。自立出来るよう状態を見ながら介助の仕方を考えている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには、花壇や家庭菜園があり、入居者が自主的に手入れして頂ける様働き掛けている。ベランダでは、食事・餅つき行事・洗濯干し場に、また椅子を置きゆっくり外を眺め、憩いの場となるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者1人ひとりの力を信じ、出来ることはできるだけ本人の意向に沿って行って頂くようにしています。入居者のご家族の尊厳や願いを最大限尊重した関わりを心掛けています。玄関は施錠せず、地域住民や家族が気軽に訪問して頂ける環境にしています。食事の献立は、入居者に最適な食材を提供し一緒に準備や片付けをしています。環境面ではホーム内にお花や観葉植物を置くことで、癒しの空間を大切にしています。開所して2年が経過しますが職員は1人も離職していません。入居者に優しく、ゆっくりと過ごして頂ける事を念頭にしています。もし仮に自分が認知症となり施設を択べる環境にあれば、間違いなく「あぐり河野」にしたいと思います。